

基本目標 2

自然共生社会の形成【自然とともに生きるまち】

私たちの暮らしは、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである清澄で豊かな水や良質な農産物を生産する土壌など、豊かな自然環境に支えられています。

今後も生物多様性の恵みを持続的に享受していくため、生物多様性の損失を食い止め、肥沃な大地を保全し、地域の自然資源を有効活用していくことにより、【自然とともに生きるまち】を目指します。

環境指標項目	現状値 データ年度	目標値
帯広の森の育成に関わる活動者数	3,039 人 2018(平成 30) 年度	3,122 人 2029(令和 11) 年度
市内森林面積の減少率	0.02% 2018(平成 30) 年度	0% 2029(令和 11) 年度

基本施策【2-1】

生物多様性の保全

【帯広市の生物多様性】

帯広市の山間部は、日高山脈襟裳国定公園にも指定され、ヒグマやオオタカをはじめとする生きものを頂点に、クマゲラ、エゾシカ、ナキウサギなど様々な生物に貴重な生息場所を提供する重要な森林が広がっています。

それに続く農村部の林には、オオタカやフクロウ、アカゲラのほか、エゾユキウサギ、キタキツネ、エゾモモンガなどが生息しています。農村部などに残された良好な自然環境を有する林は、帯広市自然環境保全条例に基づいて帯広市自然環境保全地区に指定されています。

アオジやアカゲラ、エゾリスなどが生息している市街地の林は、都市緑地や自然林を活用した公園として維持されています。



特定外来生物のアライグマ（環境省ホームページより）

生物多様性は、開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少、里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下、外来種などの持込みによる生態系のかく乱、地球環境の変化による危機にさらされています。

帯広市においても、農地造成による森林の伐開や防風林の伐採などによる森林面積の減少や特定外来生物の生息・生育域拡大により、生物多様性の損失が懸念されており、その保全を図ることが必要となっています。

＜今後の取り組み＞

○特定外来生物対策に取り組みます

- ・生息域が拡大しているアライグマなどの特定外来生物について、アライグマ等防除計画や帯広市鳥獣被害防止計画に基づき防除をすすめます。

○生物多様性に関する情報発信等を行います

- ・帯広の森や農村部の優れた自然などで行われる体験学習、市ホームページなどによる情報発信などを通じ、生物多様性の重要性について普及啓発を行います。

○自然環境保全地区等の保全・監視を行います

- ・自然環境保全地区等の維持・監視の実施により、多様な動植物が生息する良好な自然環境を保全します。

○工事等の実施にあたり自然環境を保全します

- ・帯広市自然環境保全条例や帯広市緑のまちづくり条例、公共工事環境配慮ガイドラインを踏まえ、自然環境に配慮した工事等を実施します。

基本施策【2－2】 地域資源の保全・活用

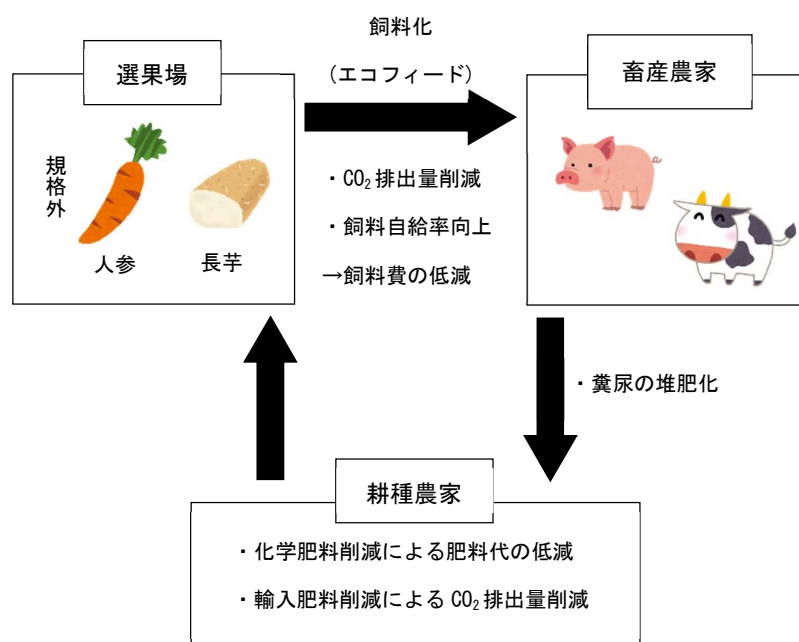
【環境保全型農業の推進】

帯広市の農業は、農地への堆肥の施用や不(省)耕起栽培などにより、土壌への二酸化炭素の貯留を促進し、広大な農地を温室効果ガスの吸収源とする取り組みをすすめています。

また、化学合成農薬や化学肥料の削減により、生物多様性の保全に貢献する環境に配慮した農業をすすめています。

更に、選果場残さや農産物残さなどから製造される家畜飼料であるエコフィードの活用や、ほ場で発生する規格外品の有効活用により廃棄物の削減を図るとともに、飼料自給率の向上により、輸入飼料及び飼料輸送に係る温室効果ガス排出量の削減を図るなど、地球温暖化防止にも貢献しています。

今後も農業分野において、地球温暖化の防止や生物多様性に貢献していくため、環境保全に効果の高い営農活動に取り組んでいく必要があります。



【自然資源の保全と活用】

十勝と日高にまたがる「日高山脈襟裳国定公園」は豊かな生態系や特徴的な成り立ち、傑出した景観を有していることから、十勝・日高の自然環境にとって重要な地域であり、日高山脈に連なる山麓部は木材等の生産だけでなく、風害防止、山地災害防止、水源涵養、生物多様性の保全に加え、森林浴などの保健・レクリエーションなど多くの機能を有しています。

こうした資源は、人々に安らぎやうるおいを与える自然空間として保全していくとともに、観光や学習の場として利活用していく必要があります。

【先人の知恵と歴史に学ぶ】

帯広市では、アイヌ民族の伝統的な文化や歴史について学ぶことのできるアイヌ民族文化情報センター「リウカ」の設置や、身近な自然をアイヌ文化の視点で紹介する自然観察会などを開催しています。

アイヌ民族は、自然や環境を大切にし、言語や音楽・舞踏・工芸・祭事等において独自の文化を育んでおり、地域資源を保全・活用していく上で、こうした知恵と歴史に学ぶことが重要です。



アイヌ民族文化情報センター「リウカ」

＜今後の取り組み＞

○環境保全型農業の取り組みを推進します

- ・農地を温室効果ガスの吸収源とする取り組みのほか、化学合成農薬や化学肥料の削減、エコフイードの活用等による環境に配慮した農業を推進します。

○地域固有の景観特性に応じた景観形成に取り組めます

- ・森林は、生物多様性の保全や自然災害の防止、美しい景観の形成など多面的な機能を有していることから、今後も適正な維持管理に取り組むとともに、豊かな十勝・帯広らしい魅力ある景観づくりをすすめます。

○自然資源の利活用をすすめます

- ・食や自然など恵まれた地域資源を、観光や環境学習において利活用していきます。

○日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた取り組みをすすめます

- ・日高山脈の多様な自然の保護強化や、知名度の向上、地域資源として活用を図るため、日高山脈襟裳国定公園の国立公園指定に向け、要望活動や関係自治体との連携強化をすすめます。

○先人の知恵と歴史を学ぶ場を提供していきます

- ・自然や環境を大切にするアイヌ文化の普及・啓発や、理解の促進に取り組み、先人の知恵と歴史を学びながら自然共生社会を形成していくため、市民の学びの場を提供します。